

※情報解禁：10月4日(火) 18:00

第8回京都ヒストリカ国際映画祭 プレスリリース添付資料

- 全上映作品
- 来場ゲスト※先行情報
- 関連企画

▼オープニング作品

バ ー フ バ リ
『BAAHUBALI: THE BEGINNING』(原題)

日本初上映

インド | 2015 | 138分
監督：S・S・ラージャマウリ
出演：プラバース、ラナ・ダグバッティ、
アヌーシュカ・シェッティ
配給：ツイン

▶あらすじ

ある日、滝の前で赤ん坊を抱えた老女が兵士たちに追われていた。老女は命を落としたが、赤ん坊は村の女に拾われ、シバドゥと名付けられた。その子は、たくましい青年として成長し、やがて自分が拾われた滝の上に何かあるのだろうかと強い好奇心を持つようになる。そして遂に滝上の大地に辿り着く。そこで彼はアヴァンティカという美しい女戦士と出会い、恋をする。彼女の一族はマヒーシュマティ王国という名の国との戦いを続けており、シバドゥは彼女に協力したいと申し出、戦士として王国に乗り込んでいく。そこで、彼はその王国に囚われている女が実は自分の本当の母親であり、自分がその王国の王位継承者バーフバリであったことを知る。



© 2015 ARKA MEDIAWORKS PROPERTY. ALL RIGHTS RESERVED.

▶みどころ

約41億円の製作費をかけ、大河アクション超大作と評される本作。インド史上最高のヒット作でありながら、アメリカでの動員数TOP10にはじめて入ったインド映画という記念すべき作品だ。また、“ボリウッド”と呼ばれる北インドを制作中心地とした世界ナンバー3のインド映画市場とは異なる文化をもった、南インドのテルグ語発ということにも注目したい。他の国にはない魅力・スターを持つインド映画、そこに世界基準のVFX技術が与えられ、ハエを主人公にしたコメディ『マッキー』にてストーリーテリングの巧みさを披露したS・S・ラージャマウリ監督作という渾身の一作。現在、製作中のパート2(2017年完成予定)が待ちきれなくなること必至だ。日本の劇場公開に大きく先駆けしたこの上映をどうか見逃さないでほしい。

※この上映は、「Create Hong Kong と Hong Kong Film Development Fund of the Hong Kong SAR Government の補助によって実施されています。〈アジア・フィルム・アワード連携企画〉



監督：S・S・ラージャマウリ [映画監督]

1973年生まれ。テレビドラマの監督からスタートし、デビューして間もないNTRジュニアを主演にすえた初長編作品『Student No.1』(01)で興行的成功を収める。以降、メジャー俳優を主演にした大型娯楽作品を発表。日本初公開作品となるハエに転生した青年が、愛する人を守るため戦うアクションコメディ『マッキー』(12)ではCGと実写を絶妙なバランスで織り交ぜた映像と、奇想天外なハエの主人公が新たなインド映画ファンを生んだ。また、南インド映画らしい庶民の視点で生きる喜びや苦悩を歌い上げ、音楽。踊りなどが楽しめるラブマサラムービー『あなたがいてこそ』(10)も日本で公開されている。テルグ映画界きってのヒットメーカーにしてスター監督。

※ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載

日本初上映

『ホームズマン』★ゲストあり

アメリカ、フランス | 2014 | 122分
監督：トミー・リー・ジョーンズ
出演：トミー・リー・ジョーンズ、ヒラリー・スワンク
海外セールス：EUROPACORP

▶あらすじ

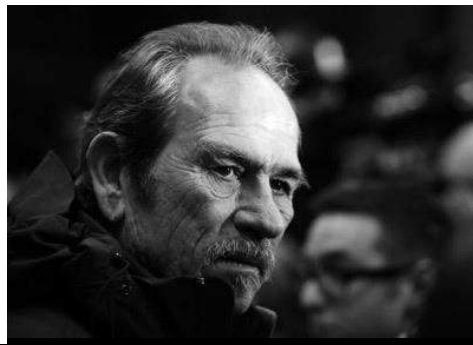
19世紀のアメリカ中西部。開拓地ネブラスカの過酷な生活で精神を病んでしまった3人の主婦を東部に送り返すため、アイオワで彼女たちの面倒をみるという教会の女性(メリル・ストリープ)まで主婦たちを連れていく役目を志願したメアリー(ヒラリー・スワンク)。独身で農場を切り盛りする自立したメアリーだが、遠い道のりを一人で旅するのは心もとなく、縛り首になりかけていた流れ者の男“ジョージ・ブリッグス”(トミー・リー・ジョーンズ)に馬車を御させることに。奇妙な一行は、恐怖を抱えながら荒涼とした地を横断してアイオワを目指す。第67回カンヌ国際映画祭コンペティション正式出品作品。



© 2014 The Homesman Limited Partnership -Photo : Dawn Jones

▶みどころ

カンヌ国際映画祭で男優賞、脚色賞を獲得した前作『メルキアデス・エストラダの3度の埋葬』から約10年、日本でも宇宙人役を演じたCMで人気のハリウッドスター、トミー・リー・ジョーンズによる監督2作目。2014年のカンヌ国際映画祭のコンペで発表されるやいなや、アメリカが隠してきた歴史を語った作品として話題に。これまでの西部劇が男たちの物語であるのに対し、同じく過酷な環境の中で生きてきた、美しくも、強くもない普通の女性たちを主人公に、現代性をもった視点で描いた意欲作。際立ったミニマルで静謐な佇まいが、異色の映画に深みと清らかな感動を与えている。トミー・リー・ジョーンズ、ヒラリー・スワンクという経験豊かな二大スター共演作、2人の関係がゆるく物語の展開は衝撃的。



トミー・リー・ジョーンズ来場決定！！

※監督プロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載しています。

『秘密が見える目の少女』

日本初上映

デンマーク、ノルウェー、チェコ | 2015 | 96分

監督：ケネス・カインツ

出演：マリア・ボネヴィー、ヤコブ・オフトプロ、ソーレン・マリン、ペーター・ブラウボー

映画祭ディストリビューション：Danish Film Institute

▶あらすじ

少女・ディナは、母親から受け継いだ“恥あかし”と呼ばれる、相手の目を見ると、その者が秘密にしておきたい“恥”とされる過去の行為を見ることができる不思議な能力を持っていた。ディナは村人からも敬遠される、この力を嫌っていた。ある日、ドンアークの領主らの殺人事件が起こり、ディナと母親が事件解決のために呼ばれる。しかし、それは領主の後継者・ニコを陥れる恐ろしい陰謀だった。真実を探るため、ディナは今まで疎ましく思っていた自分の“力”を使うことを決心する。



▶みどころ

ブチョン、ブリュッセル、モンリオールなど世界各国の映画祭で上映されている本作。原作の『秘密が見える目の少女』（リーネ・コーバベル著）は日本でも出版されている児童文学だが、ケネス・カインツ監督によって、国境を越えて大人が楽しめる作品となっている。少女が心の奥の“恥”を見たとき、その者は自分の罪の深さも知らしめられる。罪悪感・劣等感といったダークサイドをめぐるものでありながらそこに人として真実の姿があり、10歳の少女の使命をもったまなざしは見るものの心を捉えて離さない。脚本は、デンマークを代表する世界的な女性監督スサンネ・ピアと多数コンビを組み、第83回アカデミー外国語映画賞に輝いた『未来を生きる君たちへ』も手がけているアナス・トマス・イエンセン。



監督：ケネス・カインツ [映画監督]

1970年生まれ。デンマークを拠点に活動しており、精神障害を患い、モノクロの古いメロドラマが現実との架け橋になっている青年の話を描いた長編作品『Pure Hearts (日本未公開)』(2006)はアムステルダム・ミュンヘン・台北・ワルシャワなど世界各国の映画祭で上映され、高い評価を受けた。今回の『秘密が見える目の少女』では“デンマークのアカデミー賞”と呼ばれる2016年ロバートで、11部門にノミネート。児童映画/青少年映画賞、作曲賞、脚色賞、視覚効果賞、衣裳賞の5部門で最優秀賞を受賞。今後のさらなる活躍が期待されるケネス・カインツ監督の日本初公開となる。

『バタリオン』

日本初上映

ロシア | 2015 | 120分
監督：ドミトリー・メスヒエフ
出演：マリア・アロノヴァ、マリア・コジェーブニコワ、
アリョーナ・クチコワ、ヴァレリヤ・シキランド
海外セールス：RUSSIAN WORLD VISION

▶あらすじ

1917年2月、皇帝が退位したロシア。塹壕では、ドイツ軍との衝突が長期間続いており、軍は実質的には解散寸前の状態だった。そこで臨時政府の命により、軍の士気を上げるべく全隊員を女性とする部隊「婦人決死隊・バタリオン」が設立。貴族の夫人、学生、労働者など一般市民から集められた女性たちが、ロシア軍の兵士として最前線に送られた。戦意を失ってしまった男性に反して勇敢に振舞う彼女たちに訪れる切な過ぎる過酷な運命とは…。



▶みどころ

ロシア・アカデミー賞（ゴールデン・イーグル賞）で4部門の最優秀賞を受賞したほか、ムンバイ・ポーツマスなど世界各国の映画祭で上映・受賞されている本作。ロシアを拠点とするドミトリー・メスヒエフ監督作品は初めての日本公開となる。本作で描かれる女性兵士たちは、祖国のため役に立ちたいと勇敢でありながら、夢や希望を持つ“女性”のままだった。その中で、バタリオン創立に携わり、指揮をとった実在の人物マリア・ボチカリョーフを演じた、マリア・アロノヴァの演技が秀逸。厳格な司令官として任務を背負い、戦場で先頭に立って部隊を鼓舞し続ける一方、プロパガンダの一環として戦場に立たされた女性兵士たちの不条理に誰よりも向き合わざるをえなかった。当時は語りえない物語に涙が止まらない傑作。



監督：ドミトリー・メスヒエフ [映画監督]

1963年、レニングラード生まれ。監督のほか多数のTVシリーズのプロデュースを手がけている。2004年には、長編監督作『OUR OWN』（日本未公開）で第26回モスクワ国際映画祭の最優秀作品賞を受賞。『バタリオン』では、ニキータ・ミハルコフ監督によって2002年に設立された“ロシアのアカデミー賞”と呼ばれるゴールデン・イーグル賞で、9つの賞にノミネート、助演女優賞・編集賞・録音賞・音楽賞の4つの賞で最優秀賞を受賞している。今回が記念すべき日本初公開の機会となる、ロシアの実力派監督。

『ウルスリのすず』

日本初上映

スイス | 2015 | 104分
監督：サヴィアー・カラー
出演：ヨナス・ハルトマン、マルクス・シグネール、
トニア・マリア・ジンデル
海外セールス：ARRI Media GmbH

▶あらすじ

アルプス山奥の小さな村に暮らす少年・ウルスリ。ウルスリ一家は冬を越すため山を降りて村の家に向かっている途中、馬車に乗せていた収穫物を崖から落としてしまった。村にある裕福だが不親切な店の主人は、家族を助ける代わりに自分の息子にウルスリの大事なヤギを渡すよう言うてくる。さらに、春迎の鈴祭りのために、村一番の鈴を受け取るつもりではりきっていたウルスリが手にしたのは小さな鈴…。一大決心をしたウルスリの冒険が始まる！



▶みどころ

「アルプスの少女 ハイジ」と並び、スイスで国民的に愛されている物語「ウルスリのすず」を映画化、同国で大ヒットとなった本作。『ジャーニー・オブ・ホープ』(90)でトルコからスイスへ亡命する家族を描き、アカデミー賞外国語映画賞を受賞したザヴィアー・コラーが監督。スイスのウンターエンガディン地方で毎年3月に行われる鈴祭りが題材となっており、壮大なアルプルの風景の中、ウルスリ少年の子どものらしい好奇心や、家族や仲よしの女の子に対する心の機微を丁寧に描いた演出で、国境、世代を超えて魅了される良質なストーリーになっている。雪深いスイスの村での暮らしの風景や、脇を固める村人たちのユーモアあふれるキャラクターもぜひ楽しんでほしい。



監督：ザヴィアー・コラー [映画監督]

1944年生まれ。機械工の職人として技術を習得していたが、芸術に関心が向かいチューリッヒの演劇学校で監督、演技について学ぶ。俳優として多数のテレビドラマや映画に出演しながらCMの監督を手がけていく中で、長編映画の脚本・監督としてのキャリアをスタートさせる。代表作『ジャーニー・オブ・ホープ』(90)では、第63回アカデミー賞外国語映画賞にスイス代表として出品され受賞。『ウルスリのすず』は9作目の長編映画となる。

『西遊記 ヒーロー・イズ・バック』

関西初上映

中国 | 2015 | 83分

監督：ティエン・シャオポン

出演：ジャン・レイ、リン・ズージェ、トン・ズーロン

配給：アクセスブライト

▶あらすじ

悪行のため、釈迦の手で400年間五行山に閉じこめられた伝説のヒーロー孫悟空。ある日、孤児であり出家した小坊主・リュウが山に迷い込み、偶然にも孫悟空の封印を解いてしまう。リュウの住む長安の街は悪い妖怪に襲われ、あわやのところで助けた女の子・ハナと逃げてきたのだ。孫悟空はすぐにでも花果山に帰りたかったが、ほっておくこともできず、はるか遠くなった長安に戻ろうとするリュウたちをしつしつ送り届けることに。腕の封印が解けず、力も弱まり頼りにならない孫悟空であったが、難を逃れながら旅を続けていく。が、妖王は孫悟空の力が弱まっていることを知ると、いとも簡単にハナをさらって行ってしまった。己の力の弱小化を嘆くばかりの孫悟空を見て、リュウは妖王のアジトへ入向かう。そして最後の決戦が始まった！



©2015 October Animation Studio, HG Entertainment

▶みどころ

三蔵法師の前世である少年・リュウと、400年ぶりに解き放たれた孫悟空による冒険を描いた迫力満点のファンタジーアクション。中国産アニメは海外には勝てないという風潮を破り、中国の歴代興収を塗り替えた話題作だ。監督は構想に8年という時間をかけて個人で細々と製作を開始。この鬱屈とした現代にあの有名な孫悟空が蘇り、大暴れすることを想像して完成させた。“ヒーローらしくない孫悟空のキャラクターがなじめない”と、町外れの一軒の劇場からの公開スタートから、口コミにより異例の大ヒットという成功を収めた本作を見逃さないでほしい。日本語監修版製作総指揮には宮崎吾朗監督が決定。

監督：ティエン・シャオポン [映画監督]

1975年北京生まれ。十月数碼集団代表取締役。(※数碼=デジタル) 93年北京工業大学ソフトウェア専攻で学ぶ。大学卒業後、外資系のアニメ制作会社に就職。国産アニメ『西遊記』の制作に携わり、そのうち四話を監修。十月数碼アニメスタジオ設立、美術総監督を務める。監督を務めた3Dアニメ映画『TURBOBOY』(未公開)で中国視協カートゥーン芸術委員会や中国デジタル芸術専門委員会を受賞。アメリカにて『スパイダーマン』ゲームのCM動画制作&アニメ監督を担当。また上海万博万博館で流す3Dアニメ映画『蟻穴探検』、ゲーム『仙剣奇侠传5』CGコマーシャルアニメ、イタリアボンペイ博物館で流す4Dアニメ映画、オンラインゲーム「傭兵天下」CGコマーシャルアニメなどの多数の作品で監督を手がけている。





『豪傑児雷也』 ★弁士付上映

日本 | 1921 | 21分

監督：牧野省三

出演：尾上松之助、市川寿美之丞、片岡長正

弁士：坂本頼光

▶あらすじ

児雷也こと尾形周馬は、戦乱の世に幼くして取り残されたが、城主尾形左衛門尉弘澄に救われ育てられた。その後、弘澄が二人の武将の讒言による策略で殺され、周馬は父の仇を討つべく諸国放浪の旅に出る。のち、仙素道人からガマの妖術を授けられてた周馬は、児雷也として様々な危難を乗り越え、恋人綱手姫の助けも得て、宿敵・大蛇丸との対決を迎えるのだが…。



写真提供：マツダ映画社

▶みどころ

日本映画の父・牧野省三に見出され、旅芝居の役者から映画界に入り、生涯に約1000本の作品に出演したと言われる、日本で最初の映画スター・尾上松之助の代表作の一つ。歌舞伎はもちろん、講談本や新聞小説にも題材を取り、ありとあらゆる英雄豪傑を演じて人気を博した。特に、トリック撮影を駆使した忍術モノは大人気で、実際にそれを真似て木から飛び降りるなど、怪我をする子供が後を絶たなかった。着ぐるみを登場させ、逆回転や二重露光を多用するなど、VFX全盛期の今から見ればアナログな演出方法だが、当時の製作者の熱意と創意工夫を感じられて、胸が熱くなる。忍術を描く映画は、いつの時代も人々の心を掴んでいたことを証明してくれる1本。

※ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載

『忍びの者』

日本 | 1962 | 104分

監督：山本薩夫

出演：市川雷蔵、藤村志保、伊藤雄之助

▶あらすじ

戦国末期、延暦寺や石山本願寺を攻撃した織田信長は、伊賀忍者たちの怒りを買った。忍者の中で勢力を二分する百地砦の三太夫と富士林長門守は、それぞれの配下に信長暗殺の密命を下した。三太夫は妻のイノネと五右衛門を密通させ不義を働いたとして妻を殺害、五右衛門に代償として信長暗殺を命じる。京に出た五右衛門は信長の命をねらうが…。

▶みどころ

印もドロンも煙幕もない『忍びの者』のイメージはここに始まった。党派のお頭に忠誠を尽くし、技能でもって戦国武将に金で雇われる助っ人集団であり、平時は田畑に生きる百姓であり、ヒエラルキーに翻弄される勤め人として描かれた忍者たちは、高度成長期のサラリーマンのネガでもあった。その辛口が映画のリアリティを支える仕掛だが、忍者キャラクターには、リアルよりキャッチーな黒装束を選んだとろに山本薩夫監督の閃きが感じられる。色仕掛、なりすまし、といったのちの忍者映画を進化させるネタもここに見出される。本作に続く一連の”リアリズム”忍者映画や柴田錬三郎などの時代小説を呼ぶエポックとなった作品。



©KADOKAWA 1962

『劇場版 忍者部隊月光』

日本 | 1964 | 78分

監督：土屋啓之助

出演：水木襄、浅沼創一、石川竜二

配給：東映

▶あらすじ

水爆の何千倍という威力を持つ「Zスター爆弾」が、北大西洋条約機構に秘密裏に運ばれる途中で、爆撃機もろともブラック国際軍事秘密結社に奪われてしまった。ブラックは世界連合のベルドリック事務総長に脅迫状を叩きつけた。一千億円相当のダイヤを出さねば某大都市をZ弾で破壊するというのだ。さらにブラックによってZ弾の発明者であるローゼンハイマー博士と藤波博士が誘拐されてしまう。月光を始めとする9人の忍者部隊がZ弾奪還と博士達の救出に乗り出した。



©東映

▶みどころ

現在、世界が受け容れたニンジャは、松之助以来のコアな魅力＝子ども心をワクワクさせるヒーロー性と云える。チームワーク、ユニフォーム、アクション…。その本質は時代劇に限ったものでない。今から見ると他愛ない発想だが、忍者を現代に移したのはチャレンジだったに違いない。腰をかがめて背中 of 忍者刀を押えて小走りする月光ごっこは少年たちに大流行した。連続もののテレビドラマであり、仮面を被らない(吹き替え出来ない)アクションはたいへんな苦勞だったろう。しかし、その挑戦が戦隊モノ＝パワーレンジャーに繋がっていく。土屋啓之助監督は歌舞伎の家元の家柄で、新東宝で時代劇を撮ってきたキャリア。時代劇とヒーローものの近似性がここにもある。

『くノ一忍法』

日本 | 1964 | 88分

監督：中島貞夫

出演：芳村真理、中原早苗、三島ゆり子

配給：東映

▶あらすじ

大阪城が落城となる前夜、敗戦を見越した真田幸村は、豊臣の血を絶やさぬために信濃の女忍者お喬・お眉・お瑤・お由比・お奈美の5人に秀頼の子を身籠らせた。千姫はこの女忍者達を従者に紛れ込ませて大阪城を脱出。しかしこれを知った家康は伊賀忍者の鼓隼人・七斗捨兵衛・般若寺風伯・雨 巻一天斎・薄墨友康の5人に女忍者殺害を命じた。



©東映

▶みどころ

“リアリズム”調の忍者映画や小説をシニカルに見ながら、奇想とエロティシズムを武器に“ロマンチック”の側に引き寄せて忍法を語って見せたのが鬼才・山田風太郎だ。忍者の即物的な身体技術はあられもないエログロに陥り易いが、ファンタジックな語りの魅力で伝奇小説と謂われた軽さに独創がある。女忍者くノ一を主役にしたこともチャレンジだったろう。その忍法は「筒枯らし」「花開き」。時代劇映画の変調とも重なった時期に風太郎忍法帖の原作に目をつけ、本作で監督デビューした中島貞夫は、芳村真理や山城新伍の放つスケベ忍法を抑えた性描写でアイデア一杯に描き、風太郎の工口さでなく軽さを観せてくれる。中原早苗の身体から噴出するカスの妖気はなんだ？

『伊賀忍法帖』

日本 | 1982 | 100分

監督：斉藤光正

出演：真田広之、渡辺典子、千葉真一

▶あらすじ

戦国の世、下剋上の機運に乗じようとする武将・松永弾正は主家の奥方を我がものにせんと、5人の妖術僧に命じ媚薬を作らせようとし、美女狩りを命じた。この陰謀を企んだのは、妖術僧の後ろ楯で正体不明の果心居士だ。妖術僧たちの美女狩りの標的は、伊賀の忍者、笛吹城太郎の恋人であり、奥方の双子の妹である篝火に向けられた。果心居士の率いる妖術僧と対決する城太郎。「オン・マリシエイ・ソワカ」愛の呪文は悪魔の妖術に勝てるのか？



©KADOKAWA 1982

▶みどころ

真田広之の出現は忍者俳優の資質を劇的に変えた。アクションが全然違うのだ。忍者キャラクターも変えた。長髪を束ねたヘアスタイルと短い野良着に短パン姿はモダンで健気なアイドルに見える。角川映画第三の女優として、この映画でデビューする渡辺典子との共演はアイドル映画を期待されてのものだろう。しかし原作は山田風太郎。女の愛液を煎じつめて作る惚れ薬の物語だから、ヌードもあれば中尾彬も成田三樹夫もいる。エログロな風太郎ワールドと恋愛禁止の忍びの掟にアイドルの純愛が抗う構図になる。見ものは往時の角川映画だからこそ出来た本物のスペクタクルと体を張ったアクションだ。燃え落ちる大仏殿と、躍動する福本清三には逃せない価値がある。

※ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載

『ニンジャ・アサシン』

アメリカ、ドイツ | 2009 | 99分 | R-18

監督：ジェームズ・マクティーク

出演：Rain、ナオミ・ハリス、ショー・コスキ

配給：ワーナー・ブラザーズ映画

▶あらすじ

世界屈指の暗殺者のひとり、雷蔵。彼は、伝説的秘密組織“小角の一族”に幼いころ拾われ、最強の殺し屋に鍛え上げられた。だが、一族に友を情け容赦なく処刑されたことに衝撃を受けて組織を脱走。そして彼は今、じつと息をひそめ、復讐のチャンスを待っている。またベルリンにある欧州警察組織ユーロポールの科学捜査官ミカ・コレッティは偶然、莫大な額の金の動きを発見する。それは一連の政治家暗殺と、極東からと思われる正体不明の暗殺者の闇ネットワークを結びつけるものだった。小角の一族は彼女を永遠に葬り去るために恐るべき腕をもつ武率いる暗殺者の一団を送り込む。雷蔵がミカを救い、ヨーロッパ各地を舞台に決死のチェイスが始まる。



© 2009 Warner Bros. Entertainment Inc., Legendary Pictures and Dark Castle Holdings, LLC

▶みどころ

VFX技術の劇的な進化で忍者表現は様変わりした。時間軸も重力も自在に描けるようになり、忍者は超人化していく。VFXアクション映画の到達点に『マトリックス』があるが、その監督・ウォシャウスキー兄弟が『スピードレーサー』を撮影中にベルリンで並行して作られたのが本作だ。韓国人俳優 Rain が主人公・雷蔵(!)を演じたり、幾らか違和感もあるものの、殺戮技術者としての忍者の存在感は圧倒的だ。冒頭、姿を見せない雷蔵が幾つもの首を飛ばしていくのは、ドロンと消えた松之助の21世紀テクノロジーによるリバイバルだ。81年『燃えよニンジャ』のショー・コスキから始まるニンジャの国際化の結実ともいえる。

ザ ラスト ナルト ザ ムービー
『THE LAST -NARUTO THE MOVIE-』

日本 | 2014 | 112分

監督：小林常夫

出演：竹内順子、水樹奈々

配給：東宝

▶あらすじ

第四次忍界大戦終結から2年後…。忍界大戦の英雄となったナルトは、仲間たちと楽しい時を過ごしていた。そんなナルトをずっと見守ることしかできなかったヒナタの想いは、こっそり編んだ1本のマフラーとともに未だ届けられずにいる。

そんな中、謎の男の出現と共に月の異常接近という緊急事態。男の名は大筒木トネリ。ヒナタを執拗に狙うトネリの目的とは？刻々と地上に近づく月から降り注ぐ隕石との壮絶な防衛戦の中、トネリを追うナルトたちに明かされた恐ろしき「真の最終計画」——ナルトは世界を、そして大切な存在を守ることが出来るのか？



©岸本齊史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ

©劇場版 NARUTO 製作委員会 2014

▶みどころ

岸本齊史による原作『NARUTO -ナルト-』は、週刊少年ジャンプで1999年から2014年まで連載され700話で完結した超人気漫画。猿飛佐助や児雷也が活躍した近世日本の文化・風俗を世界観のベースに、歴代の人気忍者キャラだけでなく仙人から日本神話、そして現代風俗まで取り込んだ忍術ファンタジー。チャクラという超人的な力を駆使した忍者同士の対決の派手なアクションが売りであるが、底流に、憎しみの連鎖、血の相克に突き動かされ、殺し合いを止められない人の業を描く、忍者映画の正統ヴァリエーション。本作は劇場版アニメの10作目にあたり、原作者が総監修して原作の699話から最終話の間をつなぐ物語を映画化した。

『ミュータント・タートルズ』

【連続上映】

アメリカ | 2014 | 101分 |

監督：ジョナサン・リーベスマン

出演：ミーガン・フォックス、ウーピー・ゴールドバーグ、ウィリアム・フィクトナー、ウィル・アーネット

配給：パラマウントジャパン

▶あらすじ

悪の犯罪組織フット軍団が暗躍するニューヨーク。ある日、特ダネを狙うTVレポーターのエイプリルは、何かがフット軍団の犯罪を阻止している姿を目撃する。その正体は、身長180センチでニンジャの技を炸裂させる4人のカメニタートルズだった！エイプリルは彼らの存在を報道しようとするが…。



©2014 PARAMOUNT PICTURES. ALL RIGHTS RESERVED.
TEENAGE MUTANT NINJA TURTLES IS A TRADEMARK OF VIACOM INTERNATIONAL INC.

TM, ® & © 2015 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

▶みどころ

オリジナルはアメコミ・マーベルのパロディ同人コミックだという。ノロマなカメと俊敏な忍者のミスマッチを狙ったギャグ漫画から、アニメ、ゲーム、そして2度の実写映画化に広がっていく魅力のコアはチームワーク・ユニフォーム・アクション。前回の映画化から20年、屈指のマナーメイカー・マイケル・ベイの勝算はVFXの進化にある。着ぐるみ感が否めなかった前シリーズに比べ、表情や質感は別モノのリアリティがある。モーションキャプチャーが俳優の表情をカメに映し出しているのだ。キャラクターの描き分けも進化し、その分チームワークもグッと前に来た。加えてミーガン・フォックスの分かり易いセクシーさと、爆破とロックのマイケル・ベイ節は極上のエンタメだ。

『忍者 EX』

【連続上映】

アメリカ | 2016 | 18分

監督：アーロン・ヤマサト

出演：ケヴィン・ウォン、ケヴィン・ヤマダ、レオン・シン

▶あらすじ

ハワイを拠点にする強力なヤクザの組織に誘拐された少女・ティナ。彼らの要求に従わなければ、彼女の命はない。絶望して救世者を待ち望む彼女の母親のもとに、忍者EXが現れる。忍術をはじめあらゆる武術を身につけ、犯罪と戦う使命を背負った日系アメリカ人・忍者EXは、正義のために恐ろしい闇社会へと潜入する。



© Studio EX, LLC

▶みどころ

ハワイの人気TVシリーズ“忍者EX”は、アーロン・ヤマサト監督による、ハワイ国際映画祭でも受賞した映画“BLOOD OF THE SAMURAI”のスピノフとして製作された。

京都フィルムメーカーズラボ卒業生でもある監督は、「ハワイで育ちながら、暴れん坊将軍、服部半蔵 影の軍団、遠山の金さん、人造人間キカイダー、仮面ライダーなど日本のテレビドラマのヒーローが大好きだった。それらと同じ性質を持ちながら、日本とハワイを掛け合わせたものを作りたかった。」と語る。武術アクションが冴え渡る今回のリポート作品には、70年代、80年代のコミックのスーパーヒーローのほか、日本のテレビ時代劇『服部半蔵 影の軍団』やマーベル・コミックを映画化した『ブレイド』からの影響を見てとれる。

連携企画① アジア・シネラマ-アジア・フィルム・アワード・アカデミー フィルムロードショー



主催：アジア・フィルム・アワード・アカデミー、京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会、第29回東京国際映画祭実行委員会
補助：Create Hong Kong and Hong Kong Film Development Fund of the Hong Kong SAR Government

■アジア・シネラマ-アジア・フィルム・アワード・アカデミー フィルムロードショー

本プログラムは、アジア全域版アカデミー賞新組織として2014年に設立されたアジア・フィルム・アワード・アカデミー（AFAA）による、アジア映画の世界への発信を目的とした各国の映画祭との連携上映事業の一つです。過去にアジア・フィルム・アワードでノミネート/受賞された5作品を、多彩なゲストを招いたトークと共に上映します。

『黄金時代』

中国、香港 | 2014 | 179分 |

監督：アン・ホイ

出演：タン・ウェイ、フェン・シャオフェン、チュー・ヤーウェン、ワン・チーウェン、ホアン・シュアン

海外セールス：Edko Films Limited

▶あらすじ

中国東北部の黒竜江省に生まれたシャオ・ホンは幼くして母を失い、祖父の教育を受けて育つ。暴力的な父親から逃れようと何度か家出を試みては失敗。やがて文才を認められるようになり、作家シャオ・ジュンと出会って惹かれていくとともに、上海の文壇で魯迅をはじめとする作家たちとも交流する。やがて日中戦争の戦火を逃れる日々の中、シャオ・ジュンとの破局を迎え、1940年に香港へ移るが、最期のときは迫っていた…。



© Stellar Mega Films Ltd.

▶みどころ

『桃さんのしあわせ』など香港のみならず、アジアを代表する女性映画監督として活躍しているアン・ホイ。香港・アカデミー賞である香港電影金像奨で、最優秀監督賞を5度受賞している唯一の人物でもある。本作の脚本は、中国を拠点に活躍するリ・チアンによって2年半ものときをかけて制作され、革新的ともいえるアプローチで人生の“真実”を描くことに成功した。『ラスト、コーション』のタン・ウェイなど実力派俳優たちの演技が光り、2014年アカデミー外国語映画賞にも香港代表として出品されている。



監督：アン・ホイ [映画監督]

1947年生まれ。中国人の父と日本人の母との間に生まれ、幼少時に香港に移住。香港大学を卒業後、英国にて2年間の映画専門教育を受け香港に戻った。その後、武侠映画の巨匠キン・フー監督の助監督を務めるとともに、テレビディレクターとして数々のドキュメンタリーやドラマを制作。1979年に手がけた長編映画『瘋劫（日本未公開）』を経て、香港ニューウェーブの旗手として創作活動を開始し、これまでに国内で受賞した賞は数え切れない。ベトナム難民など社会的な問題に鋭く踏み込む作品から、代表作『桃さんのしあわせ』（11）などホームドラマまでジャンルに固執しない幅の広さを持ち、香港の映画界を牽引する監督である。

『隻眼の虎』

韓国 | 2015 | 139分 |

監督：パク・フンジョン

出演：チェ・ミンシク、チョン・マンシク、キム・サンホ、チョン・ソグォン、大杉蓮

配給：クロックワークス

▶あらすじ

西暦 1925 年。朝鮮最後の猟師と謳われながらも、ある事件をきっかけに銃を捨てた“伝説の男”チョン・マンドクは、険しい山の奥深く、息子と2人でひっそりと暮らしていた。一方、軍主導のもと<害獣駆除>に熱を上げる地元の猟師たちは、“山の神”とも“朝鮮虎の王様”とも畏られる隻眼の大虎を仕留めようと躍りになっていた。山が雪に閉ざされ、狩りが難しくなる本格的な冬を前に、なんとか“山の神”を仕留めたい軍と猟師団は、いまだかつてない大規模な捕獲作戦を決行することに。マンドクは“山の神”を怒らせてはならない」と警告を発するが、いつしかその激しい戦いの渦に飲み込まれていくのであった。



© 2015 [NEXT ENTERTAINMENT WORLD & SANAI PICTURES] All Rights Reserved.

▶みどころ

韓国のアカデミー賞ともいわれる大鐘賞で3度の主演男優賞を受賞し、韓国が世界に誇る名優、チェ・ミンシク（『オールドボーイ』など）主演。本作では無骨ながらも自然への敬意と家族へのやさしさをにじませる“伝説の猟師”を演じる。対する大虎は、韓国が持つ技術を総動員し、200人以上のCGスタッフで1年以上をかけて制作。驚くべきリアリティをもって観客を圧倒する。傑作ノワール『新しき世界』でもチェ・ミンシクとタッグを組んだ俊英パク・フンジョン監督らしい骨太な物語と壮大な映像世界に引き込まれる。

監督：パク・フンジョン [映画監督]



『生き残るための3つの取引』（10）、『悪魔を見た』（10）、そして監督作品『新しき世界』（13）に至るまで、陰謀と裏切りをテーマに緻密に組まれたプロットの中で、異なる欲望が渦巻く男たちの世界を描いてきたパク・フンジョン。しかし本作は虎と男の物語であり、消え行く存在に対する深い畏怖の念を描いている。世界中の映画祭で上映され、コリアン・ギャングの一つの典型となった『新しき世界』直後の次回作としては意外かもしれないが、本作はそれ以前の2009年に草稿ができていた作品であり、彼の映画の出発点にある映画ともいえる。観客を物語に引き込み、次のシーンへと期待させるストーリーテラーは、朝鮮最後の虎をスクリーンに連れてきた。

※ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載

『駆込み女と駆出し男』

日本 | 2015 | 143分

監督：原田真人

出演：大泉洋、戸田恵梨香、満島ひかり

配給：松竹

▶あらすじ

質素倹約令が発令され、庶民の暮らしに暗い影が差し始めた江戸時代後期。鎌倉には離縁を求める女たちが駆込んでくる幕府公認の縁切寺の東慶寺があった。但し、駆込めばすぐに入れるわけじゃない。門前で意思表示をした後に、まずは御用宿で聞き取り調査が行われるのだ。駆出し医者でありながら、戯作者にも憧れている信次郎は、そんな救いを求める女たちの身柄を預かる御用宿・柏屋に居候することに。知れば知るほど女たちの別れの事情はさまざま。柏屋の主人・源兵衛と共に離縁調停人よろしく、奇抜なアイデアと戦術で男と女のもつれた糸を解き放ち、ワケあり女たちの人生の新たな出発を手助けしていくが…。



© 2015 「駆込み女と駆出し男」製作委員会

▶みどころ

国民的作家、井上ひさしによる時代小説「東慶寺花だより」を原田真人監督が映画化、初めて時代劇に挑戦した。いかなる時においても夢と希望を忘れず、独特なユーモアと台詞で温かく人間を見つめてきた井上ひさしと、第35回モントリオール世界映画祭審査員特別グランプリを受賞した『わが母の記』を世に送り出した原田真人監督という組み合わせにより、全く新しい時代劇が誕生。現代の2倍あったと言われる江戸時代の離婚をモチーフに、縁切寺に駆込んでくる女たちの明るく逞しく生きる姿を描くとともに、江戸時代後期の人々の暮らしや文化をも活写した人情時代劇。

※監督プロフィール・ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載。

『グランド・マスター』

香港、中国 | 2013 | 123分

監督：ウォン・カーウアイ

出演：トニー・レオン、チャン・ツイー、チャン・チェン

配給：ギャガ

▶あらすじ

戦争の足音が、刻一刻と迫る1930年台の中国。北の八卦掌(はっけしょう)のグランド・マスターであるゴン・パオセンは引退を決意し、その地位と生涯をかけた南北統一の使命を譲る後継者を探していた。候補は一番弟子のマーサンと南の詠春拳(えいしゅんけん)の宗師・葉問(イップマン)。パオセンの娘で、奥義六十四手をただ一人受け継ぐゴン・ルオメイも、女としての幸せを願う父の反対を押し切り自ら名乗りを上げる。だが、野望に目の眩んだマーサンがパオセンを殺害。ルオメイはイップマンへの想いも、父の望みも捨て、仇討ちを誓う。ここに後継者争いと復讐劇が絡み合う、壮絶な闘いの幕が切って落とされた。



© 2013 Block 2 Pictures Inc. All rights reserved.

▶みどころ

ブルース・リーの師である葉問(イップ・マン)の実話をもとに、カンフーの技と思想に真正面から迫る壮大な物語のために、4年間に及ぶトレーニングに身も心も捧げたのは、今やアジアから世界のトップスターに昇りつめた、トニー・レオンとチャン・ツイー。20世紀初頭の中国を舞台に、実際に各派の宗師たちから学んだリアルな拳法と『マトリックス』シリーズのアクション監督ユエン・ウーピンが生み出す流麗なアクション、その技を極めた宗師たちの奥深い歴史と精神面にまで踏み込んだまったく新しい次元のアクションシーンが、ウォン・カーウアイ監督にしか撮れない妖艶なまでに美しい映像のなかで展開するエンターテインメント大作。

監督：ウォン・カーウアイ [映画監督]

上海生まれ、5歳の時に香港に移住。香港ノワールというジャンル映画に新鮮な映像美学を開花させた監督デビュー作『いますぐ抱きしめたい』(88)は、カンヌ映画祭の批評家週間でも上映。『欲望の翼』(90)では60年代の香港を詩情豊かに描き、香港電影金像獎でグランプリ・監督賞を含む5部門を受賞、国際的な評価を得た。フェイ・ウォン、トニー・レオン主演の『恋する惑星』(94)は日本でも大ヒット。姉妹篇『天使の涙』(95)では金城武をスターダムに押し上げた。香港返還前最後の作品『ブエノスアイレス』(97)ではカンヌ映画祭監督賞を受賞。名実ともに巨匠の領域に。『花様年華』(00)、『2046』(04)、初の英語作品『マイ・ブルーベリー・ナイト』(07)など日本で最も人気の高い香港監督の一人である。

※ゲストプロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載

※『BAAHUBALI: THE BEGINNING (原題)』の作品紹介は、ヒストリカ・スペシャルの項目に掲載しています。

京都フィルムメーカーズラボ（KFL）との連携企画。過去の KFL 参加者の最新長編映画を上映・監督トークを実施。

『古都』 ★日本初上映

日本初上映

日本 | 2016 | 117分
監督：Yuki Saito（京都フィルムメーカーズラボ 2008 参加）
出演：松雪泰子、橋本愛、成海璃子
配給：DLE

▶あらすじ

京都室町に先祖代々続く佐田呉服店。店を継いで 20 年の佐田千重子（松雪泰子）は、次々廃業する変わりゆく時代に、室町に生まれた宿命を娘の舞（橋本愛）に背負わせていいものか葛藤の中で生きていた。大学生の舞は、就職活動をする友人との会話にも入らず、店を継ぐべきなのか迷っていた。一方京都のはずれ、北山杉の里で林業を営む中田苗子（松雪泰子ノ二役）。苗子は、千重子の生き別れた双子の妹。苗子もまた深刻な経営悪化に陥っており、苗子の娘の結衣（成海璃子）はフランスに美術留学するも、力の差を感じ、無力感に苛まれていた。苗子は娘に会う為に、呉服屋の娘の舞も日本文化を披露するイベントに参加する為に、パリへ向かう。



©川端康成記念會／古都プロジェクト
11月26日京都先行／12月3日全国公開

▶みどころ

映画『古都』は、これまで多くの映像作品となってきた川端康成の長編小説「古都」を、原作のその後、大人になった主人公たちの物語として現代版にアレンジ。主演に松雪泰子、娘役に橋本愛、成海璃子を迎え、京都とパリを舞台に、長い間受け継がれてきた日本の文化、伝統に生きる2組の母娘の葛藤、成長を描く感動作。2020年東京オリンピックに向け、世界から注目を浴びる日本。凛とした“本物の日本の精神”を五感で体感し、日本人の原点を探す旅へとあなたを誘う。

「人は死んでも何も遺せないが、自然はあるがままだに残る。この美しい京都の自然を遺し守り、後世に、如何にして古都・京都や 日本を引き継ぐのか」川端康成

※監督プロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載。

『私が棄てたナポレオン』

日本初上映

イタリア | 2015 | 90分
監督：ジョルジア・ファリーナ（京都フィルムメーカーズラボ 2011 参加）
出演：ミカエラ・ラマソッティ、リベロ・デ・リエンツォ、アドリアーノ・ジャンニーニ
海外セールス：BIBI FILM

▶あらすじ

独身で輝かしいキャリアを持つアニータ。しかしわずか 24 時間の出来事で、仕事、恋愛、未来、すべてがバラバラに砕け散った…。アニータは仕事を解雇され、おなかには隠れて愛を育てていたボスの子ども。しかも彼は家庭を持っている身だった。それでもアニータは諦めない。どうにか気の効いた方法でこらしめてやろうと企む。しかし完璧と思えた作戦に、予期せぬ出来事が起こる。さらにピアッジョという内気でおかしな弁護士が登場し。



▶みどころ

本作を手がける女性監督・ジョルジア・ファリーナは、この作品でイタリア版アカデミー賞ダヴィッド・ディ・ドナテロ賞にて最優秀新人賞にノミネートされた注目の若手監督である。本作で主演のアニータ役を大人のユーモアたっぷりにシニカルに演じたミカエル・ラマソッティは、イタリアを代表する監督のひとり、パウロ・ヴィルツィ監督の新作“LIKE CRAZY”（カンヌ国際映画祭 2016 監督週間出品）で、ナストロ・ダルジェント賞の主演女優賞を受賞するなど、国内外で高い評価を受けている実力派女優。

※監督プロフィールは「来場決定ゲスト」に掲載。

連携企画③ 時代を彩る禁断の恋

本企画は、京都ヒストリカ国際映画祭と立命館大学映像学部生の共同運営で行われます。

『春の雪』

日本 | 2005 | 151分

監督：行定勲

出演：妻夫木聡、竹内結子

配給：東宝

▶ あらすじ

侯爵家の嫡子・松枝清頭（妻夫木聡）と、伯爵家の令嬢・綾倉聡子（竹内結子）は幼馴染み。ふたりはいつしかお互いに淡い恋心を抱くようになっていた。そんな折、聡子が宮家の洞院宮に見初められて、縁談話が持ちあがる。突き放した態度をとる清頭に失望した聡子は洞院宮家との縁談を受けてしまう。清頭は聡子が自分のものにならないことを知るや、初めて彼女を愛していることを自覚し、激しく聡子を求めるのだった。一度は清頭への想いを断ち切ろうと決めたが、次第に彼の愛を受け入れるようになる聡子。ふたりは逢瀬を重ね、束の間の愛に身を焦がすが、運命は過酷にも愛し合うふたりを引き裂こうとしていた…。



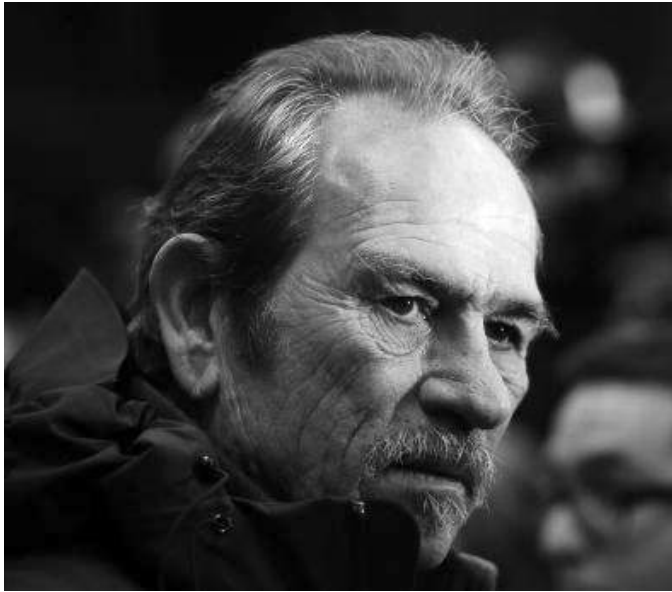
©2005「春の雪」製作委員会

▶ みどころ

互いに愛し合いながらも引き裂かれる幼馴染の男女の悲恋を中心に、華族の華やかな生活や夢と転生にまつわる幻想的な物語が繰り広げられる。流れる四季を反映する日本庭園や大正時代の建築装飾の細部を魅せる美しい画面。登場人物たちの衣装からは、実際の大正初期の華族階級の華々しさを伺える。作中で描かれる清頭の見夢の世界は、幻想的かつ不穏な雰囲気で見る者を圧倒するだろう。主演の妻夫木聡・竹内結子が表現する10代の激しくも密かな恋心は見る者に期待と不安を抱かせ、男女の悲恋を現代にも通ずるものとして再発見できる。「恋愛」という概念への考えが追求された大正という時代のロマンを堪能するのに『春の雪』は最適な作品だ。

【来場決定ゲスト】 ※一部ゲストの先行情報になります。

ヒストリカ・スペシャル



トミー・リー・ジョーンズ [監督・俳優]

<ホームズマン>

ハーバード大学卒業後、ブロードウェイの舞台で演技を磨き、『ある愛の詩』（70）で映画デビュー。その後、80年代の後半から敵役などで注目され初め『JFK』（91）、『沈黙の戦艦』（92）を経て『逃亡者』（94）のジェラード役でブレイク、アカデミー助演男優賞を受賞する。以後『メン・イン・ブラック』シリーズ（97～12）、『スペース・カウボーイ』（00）などでコミカルな面を見せるなど、第一線で活躍する。05年のカンヌ国際映画祭コンパ部門では、監督・プロデュース・主演作『メルキアデス・エストラーダの3度の埋葬』で男優賞を受賞。日本では、『メン・イン・ブラック』でエイリアンを取り締まるエージェントを演じたジョーンズにちなんだ“宇宙人ジョーンズ”のCM（06～）も話題に。『告発のとき』（07）でアカデミー主演男優賞、『JFK』（91）、『リンカーン』（12）で同助演男優賞にノミネートされた。



ショープ・ヤーラガッタ [映画プロデューサー]

<BAAHUBALI: THE BEGINNING (原題)>

インドのハイデラバードとバンガローを拠点とする、TV・映画製作のリーディングカンパニーのひとつ、アーカ・メディア・ワークスのCEOであり共同設立者。同社はこれまで興行的に成功を収め、高い評価を得ている作品を多数プロデュースしている。S.S.ラージャマウリ監督による2部に渡る『Baahubali』は2015年の7月に世界にリリースされ、インドで最も興行収入をあげた作品の一つとなった。待望の続編は2017年夏に公開予定。ショープは、数々の作品やブランドを手がけた経験から全方位対応可能なマーケティングエージェンシーであり、その探求心は趣味でも生かされ料理の研究にも熱心。

ヒストリカ・ナビゲーター



飯星 景子 [作家・タレント+ヒストリカ・ナビゲーター]

1963年、大阪府東大阪市生まれ。情報番組のコメンテーター、新聞や雑誌の連載等、幅広く活躍中。熱狂的な阪神タイガースファンとしても知られる。多種多様な趣味を持ち、芸能界屈指のフィギュアスケート・歌舞伎・落語通であるほか、映画に関する知識も豊富。特に、カンフー映画や武俠映画の熱烈なファンであり、第8回京都ヒストリカ国際映画祭ではトークショーなどを通じて、歴史映画の魅力を紹介する。

ゲスト・出演など



中島 貞夫 [映画監督] <<ノーマン・マズー>>

1934年8月8日、千葉県生まれ。映画監督。東大学在学中に、倉本聰らと「ギリシャ悲劇研究会」を結成し演出を担当。卒業と同時に東映入社（59）。入社時に「おまえ、ギリ研か。ギリシャは古典、古典は時代劇や」といわれ、京都撮影所配属に。『<ノーマン・マズー>』で監督デビュー（64）。京都市民映画祭新人監督賞受賞（65）。67年よりフリー。やくざ、風俗、任侠、時代劇、文芸もの、喜劇など作品は多様。代表作は『893 愚連隊』『木枯し紋次郎』『日本の首領』3部作、『真田幸村の謀略』『序の舞』（インド国際映画祭監督賞受賞）、『極道の妻たち』シリーズなど。牧野省三賞（06）、映画の日特別功労賞（15）ほか受賞歴も多い。最新作は『ちゃんばら美学考～時代劇は死なず』（05）。



福本 清三 [俳優] <<伊賀忍法帖>>

1943年兵庫県生まれ。1958年、東映京都撮影所に入所。以来60年近く映画・TV時代劇（『水戸黄門』、『暴れん坊将軍』）を中心に活動が続けて来た“斬られ役”俳優。殺陣技術集団「東映剣会」所属。2003年公開、トム・クルーズ主演・米映画『ラストサムライ』に抜擢されたことで注目を集める。自らの半生を語った回顧録『どこかで誰かが見ていてくれる ～日本一の斬られ役・福本清三～』（01）もベストセラーになり、2012年には中学校道徳副読本にエッセイが収録された。2014年には初主演となる映画『太秦ライムライト』が公開され、国内に留まらず北米を中心に海外でも高い評価を得る。2004年日本アカデミー賞協会特別賞、2015年京都府文化賞・功労賞受賞。



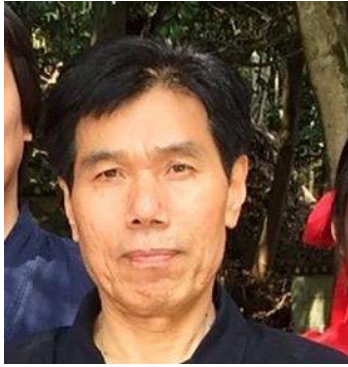
菅原 俊夫 [殺陣師] <<伊賀忍法帖>>

1940年新潟県生れ。1961年、東映京都撮影所に入所。殺陣技術集団「東映剣会」会員に名を連ね「斬られ役」として頭角を現わす。1973年には映画『東京-ソウル-バンコック 実録麻薬地帯』で殺陣師としてデビュー。以来、40年に亘り映画は勿論のこと、テレビ時代劇でも『水戸黄門』に代表される東映時代劇伝統の華やかな立ち回りから、一世を風靡した『影の軍団』シリーズでの独自のアイデアとケレン味に溢れたアクションに至るまで、それまでの常識に囚われない多彩な「殺陣」を指導。現在もそれら映像作品と平行して、商業演劇から宝塚歌劇まで様々な舞台でも活躍中。2013年に日本アカデミー賞・協会特別賞を受賞。



坂本 頼光 [活動写真弁士] <<豪傑児雷也>>

中学時代より活動写真弁士を志す。2000年に、「鞍馬天狗」でデビュー後、映画館、寺社仏閣、寄席等様々な場所に多数出演。これまでに説明した作品は約70本。2010年にはアメリカのエール大学他五大学で無声映画公演、2012年にはフランスの映画保存機関シネマテーク・フランセーズの上映会に招聘される。また、自作のアニメーションの活弁や、東京スカイツリーのマスコット「スコブルブル」の声、CMナレーション等、声優としても活躍している。



川上 仁一 [武術家、忍術研究家] <忍びの者>

6歳頃より甲賀流忍術の伴家忍之伝を学ぶ。幼少期は呼吸法に始まり、静かに動く歩法や体関節の外し方、視覚や聴覚を研ぎ澄ます訓練など忍術の基礎を学び、成長に伴って薬草や火薬の調合といった専門知識も習得した。18歳で宗家の名を継承し「甲賀流伴党21代宗師家」となる。現在は福井県若狭町にて「神道軍伝研修所」を設け、忍術・武術・兵法などの研究と広報を行なっている。また、三重県伊賀市にある「伊賀流忍者博物館」の名誉館長も務め、2012年1月からは三重大学社会連携研究センターの社会連携特任教授に就任し、学術的な忍者研究にも携わっている。正に日本における「忍者」の第一人者である。



チョ・ヨンソク [VFXスーパーバイザー] <隻眼の虎>

2000年代前半にVFXのキャリアをスタート。これまでには、カン・ドンウォン主演の歴史ヒーローアクション『チョン・ウチ 時空道士』(09年、チェ・ドンフン監督)、サスペンスアクション『ベルリンファイル』(12年、リュ・スンワン監督)、ハ・ジョンウとカン・ドンウォンの二大スターが激突するアクション『群盗』(13年、ユン・ジョンビン監督)などの大作を手がけ、韓国映画界におけるVFX制作の最前線で活躍。『隻眼の虎』では、100%CGで虎を具現化しており、1年以上かけて200人以上のスタッフたちにより、風の向きや歩き方、雪原に残された虎の足跡などを綿密に計算して制作。第10回アジア・フィルム・アワードの視覚効果賞にノミネートされた。



原田 真人 [映画監督] <駆込み女と駆出し男>

1949年生まれ。79年『さらば映画の友よ インディアンサマー』で監督デビュー。95年『KAMIKAZE TAXI』は海外でも高い評価を受け、その後『金融腐蝕列島 [呪縛]』(99)、『突入せよ!「あさま山荘」事件』(02)、『クライマーズ・ハイ』(08)など話題作を送り出す。11年に監督した『わが母の記』で第35回モントリオール世界映画祭審査員特別グランプリを受賞。社会派作品のみならず『魍魎の匣』(07)、『RETURN (ハードバージョン)』(13)などエンタテインメント性の高い作品も手掛けている。1945年8月15日の終戦日を描いた『日本のいちばん長い日』(15)では累計動員100万人のヒット。現在、司馬遼太郎原作の映画『関ヶ原』(出演:岡田准一、役所広司、有村架純)を製作中。(2017年初秋全国公開)



原田 哲男 [美術デザイナー] <駆込み女と駆出し男>

1965年、北海道生まれ。京都の松竹撮影所にて数々の映画・テレビ作品を担当する。『最後の忠臣蔵』(10)で第35回日本アカデミー賞最優秀美術賞を西岡善信氏と共に受賞。2015年、原田真人監督と組んだ『駆込み女と駆出し男』(15)が第69回映像技術賞を受賞。また、第10回アジア・フィルム・アワードの最優秀美術賞にノミネートされた。同年公開の同じく原田監督作品『日本のいちばん長い日』において、第70回毎日映画コンクール美術賞、第39回日本アカデミー賞優秀美術賞、を受賞。主な作品歴に、木村祐一監督『二セ札』(09)、朝原雄三監督『武士の献立』(13)などがある。



Yuki Saito [映画監督] <古都>

1979年生まれ。ハリウッドで映画を学び、初監督作品『TRIANGULATION POINT』が、ショートショートフィルムフェスティバル 2004 にて観客賞、審査員奨励賞をW受賞。帰国後は『バベル』などのハリウッド作品の日本撮影を取り仕切る。08年京都フィルムメーカーズラボに1期生として参加。09年、東映太秦撮影所で撮影された『カクレ鬼』がアクション/カットショートフィルムコンペティション(米)の外国語作品賞を受賞。10年に『Re:Play-Girls』で劇場長編映画デビューを飾った。また被災地のペットたちの救援活動をドキュメントした『インスタントペットハウス』がカンヌ国際広告祭 Direct 部門でのシルバー・ブロンズ受賞など、CM監督としても国内外で評価を受けている。



ジョルジア・ファリーナ [映画監督] <わたしが棄てたナポレオン>

幼い頃から映画に魅了され、大学で社会学を学んだ後にコロンビア大学映画学科で修士を取得。そのあいだ制作した短編映画は、ヴェネチア国際映画祭短編映画部門で紹介されたほか、米国映画批評会議賞の学生部門で受賞。その後、脚本やドキュメンタリー監督として経験を積み、『Bello di Mamma』(12)は国営テレビで放映された。13年、28歳で制作した初長編映画『Amiche da Morire』はシチリアの小さな村で暮らす3人女性を主人公に、イタリアでの女性の役割について描いたブラックコメディで商業的な成功を収めた。本作『』は国内外で配給が決まり、イタリア・アカデミー賞、ダヴィッド・ディ・ドナテロ賞にて最優秀新人賞ノミネートするなど、さらなる飛躍が期待されている若手監督。



ロジャー・ガルシア

※作品解説<グランド・マスター>

[アジア・フィルム・アワード・アカデミー/香港国際映画祭事務局エグゼクティブディレクター]

1970年代後半より香港国際映画祭ディレクターを務め、アジア・香港映画の世界への発信に貢献。アメリカ・ヨーロッパ・アジアの多数映画祭に、プログラマーや顧問、審査員として携わる。またアメリカとアジアにおいてスタジオ並びにインディペンデント映画を製作し、アメリカではアジア映画チャンネルの編成を担当。さらに英国映画協会(BFI)、カイエ・デュ・シネマ、フィルム・コメント、ヴァラエティなどの有名紙に映画評論を寄稿しており、最新の著書としては“King Hu: In His Own Words”がある。2010年より香港国際映画祭エグゼクティブディレクターに就任。アジア・フィルム・アワード・アカデミー(AFAA)、香港アジア映画投資フォーラム(HAF)も手がけている。



アーロン・ヤマサト [映画監督] <忍者EX>

ハワイ生まれ。アメリカで大人気のTVドラマシリーズ『パワーレンジャー』のキャスト・エージェントとして、ハリウッドで活動、また短編アニメ作品の製作で受賞。矢沢永吉、北野武、スクリーミング・マッド・ジョージのプロジェクトに携わり学んだ経験を大切にしている。映画学校を卒業後、初監督作品として製作した長編アクション映画『Blood of the Samurai』が、ハワイ国際映画祭で最優秀作品賞を受賞。アメリカを中心にDVDやVOD(Sony Playstation Network/Amazonビデオ)で配信されている。その他作品として、『Blood of the Samurai: The Series』、『Blood of the Samurai 2』そして、スピンオフテレビシリーズ『忍者EX』がある。

【関連企画】

京都ヒストリカ国際映画祭は、映画の上映企画【ヒストリカ】のほかに多くの関連企画で構成されています。国内外の若手映像作家が集い、京都の撮影所のプロとともに時代劇を製作する【京都フィルムメーカーズラボ】、京都で時代劇を製作することを条件にプロから若手までが企画を持ち寄り企画提案、制作の実現を目指す【京都映画企画市】、コスプレイヤーに根強い人気を誇るコンシューマー参加型イベント【太秦上洛まつり】などです。これらの関連企画についても、個別にプレスリリースを行っておりますのでご確認ください。

京都フィルムメーカーズラボ(Kyoto Filmmakers Lab)



昨年からは国内最大の映画祭である東京国際映画祭とパートナーシップを結び、京都伝統の時代劇製作だけでなく、多彩なゲストを講師として招聘する「マスタースセッション」も行われております。

このワークショップを通して、若い作り手たちを活性化させ、未来のフィルムメーカーを育てて参ります。

<京都フィルムメーカーズラボ 概要>

■開催日時

2016年10月29日(土)～11月3日(木) <6日間>

■内容

(1) ハンズオン時代劇 <日程：2016年10月29日(土)～31日(月)>

東映・松竹撮影所の時代劇スタッフと世界から集まる若手クリエイターが短編時代劇を製作するワークショップ。

(2) マスタースセッション <日程：2016年11月1日(火)～3日(祝)>

東京国際映画祭のサポートによる、現役で活躍する映画人と若手クリエイターのトークサロン。東映剣会の協力により殺陣講座の開催も予定。※詳細は後日発表いたします

■会場(予定)：

東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館、知恩寺ほか

■主催：

京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

(京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニフ、立命館大学)

■共催：

第29回東京国際映画祭実行委員会、KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

■協力：

京都クロスメディア推進戦略拠点

■公式サイト：<http://www.kyotofilmakerslab.com/>

京都映画企画市

京都映画企画市は若手映画・映像制作者（監督、プロデューサー等）を対象とした企画コンテストを通じて、時代劇の拠点としての京都の優位性を生かし、映画・映像や若手クリエイターが世に出ていく仕組みを構築することを目的として実施しています。

【開催日】 2016年11月2日（水）14:00～18:00

【場所】 MOVIX 京都

【URL】 <http://www.kyotofilmpitching.jp/>



太秦上洛まつり

時代劇に代表される日本の映画制作、映像産業の聖地である京都太秦において、歴史創作を中心としたコンテンツにおけるクロスメディア表現を鑑賞、体験する場を提供することを目的として始まった産学協同の取り組みです。

【日時】 2016年11月12日（土）9:00-20:00

2016年11月13日（日）9:00-17:00

【会場】 東映太秦映画村

【URL】 <http://www.joraku.jp/>



以上